



# 八軒つうしん



## 巻頭言

### 在校生に期待する

会長 菅井 茂



東日本大震災から四年目の正月を迎えましたが、昨年には若林二

丁目に「災害復興公営住宅」が出来、新しい一步を踏み出した被災者もいるようです。今年「第三回国連防災世界会議」が三月十四日から十八日まで仙台で開催され、仙台のみならず宮城県・岩手県における震災からの復興の様子が見られると思っております。世界中に発信されると思っております。それ自体がこれまで世界中からいただいた物心両面での支援に対する御礼になると思っています。この会議の関連事業として仙台市連合町内会長会が主催する「大震災から学ぶ災害に強いまちづくりシンポジウム」で私も若

林区を代表して発表することになっていきます。

さて、今年も正月の箱根駅伝で八軒中同窓生の村山謙太・紘太兄弟が活躍しました。更に彼らは一月十八日に広島市で行われた「第二〇回全国都道府県対抗男子駅伝大会」で宮城県が過去最高の第二位となったのに貢献しました。そして彼ら二人はこの四月から旭化成に入社し宗監督の指導をうけるそうですので、更に成長してリオデジャネイロや東京オリンピックに出場できるような頑張ってください。同窓生の皆さん彼らを応援してください。彼らの頑張りが八軒中学校の在校生にも良い影響を与え、いろいろな面で活躍する生徒達が出てくるものと期待しています。

ところで、今年の秋には、八軒中学生にとって大きな行事が行われます。それは八軒中学生に避難所の運営に直接関わってもらうために、初めて「八軒中学校区総合防災訓練」を実施することです。こ

れまで部単位で参加して来ましたが、今回は八軒中学校の全生徒が、南材小学校、若林小学校、古城小学校の各避難所に避難した後、それぞれの避難所での訓練に主体的に関わってもらうよう検討しています。中学生が地域住民の方々と一緒に安否確認をしたり、避難者の受け入れをしたりしながら地域の力になってもらうことが大切です。中学時代に避難所の運営にかかわることで、将来どこにどのような災害が



東日本大震災直後、避難所となった八軒中でボランティアとして働く 3 年生 (当時)

発生した時、その地域の防災の柱になり、地域のために活躍できる人物になると思うからです。また、今回の防災訓練を地域住民と一緒にやることで地域の方々に顔を知られてもらい、互いに声を掛け合う関係になることで、非行防止や健全育成につながると考えています。そして彼らが将来の八軒中同窓会の中核にもなってくれるものと期待しています。

なお、今年「総会」開催の年に当たります。七月十一日(土)に総会を開催する予定にしており、当番幹事の第二十二回生・二十三回生・二十四回生を中心に執行部と代表幹事の皆さんでしっかりと準備をし、盛大で楽しい会になるよう努めますので、是非多くの方がご参加下さるよう祈念しております。

## 代表幹事会開催

## 総会後の活動を報告

平成二十五年六月の総会後の第一回代表幹事会は、平成二十六年三月一日、八軒中北校舎多目的教室一において開催されました。

菅井茂会長をはじめとした同窓会役員、事務局のほか、高橋誠相談役、十回生、十一回生、十二回生、十三回生、十五回生、二十八回生、六十六回生が参加し、八軒中からは、小松尚哉校長先生に出席していただきました。前年三月に同窓会に迎えたばかりの六十六回生の参加があったことは、大変うれしかったです。

菅井会長の挨拶の後、小松校長先生から、最近の母校の様子についてお話がありました。

続いて、佐藤典郁(のりふみ)企画次長から総会以後の活動状況について、遠藤恭郎会計次長から会計の途中経過について、安達和則事務局長、佐藤徳子副会長から二委員会の活動状況に

ついて、永田淳子広報次長から同窓会会報「八軒つうしん」第九号の発行と今後の配布予定について、それぞれ報告がありました。

その他、執行部役員の補充について、平成二十六年度の同窓会入会式について安達事務局長から説明がありました。



第1回代表幹事会の様子

その後、次回の総会について、日程、会場のほか、準備委員会や代表幹事会の持ち方について協議され、出された意見を基に執行部会で検討し、平成二十七

年三月開催予定の第二回代表幹事会に提案することとなりました。

同窓生各期の動きについては、代表幹事会の中だけでなく、終了後に河原町の「つきだてや」において行われた懇親会でも交流しました。

なお、十五回生の木幡淳一さんが執行部に加わってくたださることになりました。

## 委員会の動き

## 「私の八軒時代」

## 編纂委員会

副会長・委員長  
佐藤 徳子

東日本大震災からまもなく四年となりますが、総会に合わせて「私の八軒時代」第一集を発刊すべく準備を進めていたのは、正にあの頃でした。総会の開催そのものも危ぶまれましたが、同窓生の皆様のご協力に支えられて、平成二十三年九月、無事開催に漕ぎ着け、第一集も発刊することができまし

た。二年後の平成二十五年六月には、「第二集」を発刊、「東日本大震災 あの時、その後」を特集し、避難所となった母校の様子や同窓生の皆様より寄せていただいた貴重な体験談を掲載いたしました。

こうした経過をたどってきた本委員会ですが、前回総会で承認いただいた活動計画では、「継続も含めて検討」となっており、次の総会に向けて「第三集」を発刊するかどうか、これまで執行部会等で検討してまいりました。

その結果、昨年の「八軒つうしん」第九号でも述べましたように、資金面に困難が見えること、二年後の平成二十九年には、母校が開校八十二年・新制七十周年となることから、平成二十七年の発刊は見合わせ、次々回の総会の年に記念誌としての性格を持たせることができなかつたということになりました。

十八年前の平成九年には、創立六十二年周年・新制五十周年記念誌が、母校、PTA、同窓会の三者の見事な連携により、充実した内容で発刊されています。

その貴重な創立六十二年・新制五十年の校史に、その後二十年の歴史をつなぐことができなかつたかと考えております。ただ、その場合は、これまでの二集と違い、より大きな事業となるものと思われま

すので、同窓会のみでできることではなく、母校や P T A と相談しながら、連携して進めていかなければなりません。

同窓生の皆様にも更なるご協力をお願いすることになると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、「私の八軒時代」第一集、第二集はまだ在庫がございます。

ご希望の方は、左記のようにお申込みください。同期会の折などにまとめてお申込みいただけますとありがたいと思います。

① 郵送ご希望の場合

ア 送料込みで一冊五百円以上の厚志

イ 代金支払いは郵便振替

(青色の用紙でお願いいたします。手数料はご負担ください)

郵便振替口座

18170-40560541

加入者名

「私の八軒時代」

編纂委員会

② 電話申込先

佐藤 徳子

〇二二 二二三 三四三五

※ 「生徒の生活環境を考える」

委員会については、現在委員長は不在で、今年度も執行部が中心となり、八軒中の健全育成の取り組みとの連携した活動を行いました。

若い仲間を迎えました

平成二十六年三月七日、平成二十五年(第六十七回)八軒同窓会入会式が行われ、男子七十九名、女子六十六名の計百四十五名が、新たに同窓生となりました。

当日は、先輩として安達和則さん(同窓会事務局長)から、次のような「餞のことば」が贈られました。

\*\*\*\*\*

おはようございます。本日の同窓会入会おめでとうございま

す。どうか皆さんの若い力を同窓会にお貸し願いたいと思いま

す。私は、八軒中第十七回生の団塊の世代です。三年時は十二組まであり、一クラス五十五人の寿司詰め学級で、帰りの掃除もままなりませんでした。私は卓球部でしたが、今でも週一回の練習を通して同級生と交流を深めています。また真田幸村から十四代目のご当主真田徹さんも、同級生であることを、奇遇に思っています。

明日は卒業式ですが、餞のことばを二つ申し上げます。一つは、自分自身の体に「あなたがとうとうをいってください。あなたの心臓も肺も、寝ている時も休みなく働き続けています。自分の体に感謝をし、「私は頑張れた」と自信をもって、挑戦していただく。二つめは、親からもらった身体に最高の笑顔を輝かせてほしいということです。それが、廻りを幸せにし、世のため人のために役立つはず。最後に「人生は旅です」。友人や書物、職業やパートナーとの

出合いを大切に、どうか良い旅を続けていただきたいと思

同期が集えば(一)

第二十八回生(昭和五十年卒)

平成二十六年二月十五日、昭和四十九年度卒業組の同期会がパレスへいあんで開かれまし



雪にも負けず集まった 34 名

同期が集えば(一)

第十一回生(昭和三十三年卒)

第六回の同期会は平成二十六年十月五日、秋保温泉緑水亭に於いて、生憎の台風の影響で、大雨にも拘わらず、関東、長野、北海道、東北の各地より、恩師の菅原昭二先生、星和男先生、六十七名の同期生の参加をいただき開催されました。体調不良、親の介護等で、参加できないと言う方が多くなりましたが、卒業以来五十七年振りの方も何人かおり、話に花が咲き、又、参加なさった方々は皆様お元気で、ハーモニカ、ウクレレ、日本舞踊、七組の皆様の大黒舞、歌等と時の経つのも忘れ、大いに盛り上がりました。

星和男先生には百二十歳まで生きるので、十一回生の同期会が続く限り必ず参加するとの嬉しいお言葉を頂戴致しましたが、その時私達は何歳になるのでしょうか？

次回の幹事も決まり、三年後の再会を互いに約束しながら翌六日に散会致しました。



一人一人のお顔がわからないのは残念ですが、紙面の都合でこれ以上拡大できませんので、悪しからず。

り、七日には「語り部バス」にて地震当時の体験談を聞きながら被災地を案内していただきました。もう三年も経過しているというのに、まだ津波の爪跡がいたる処に残る現状を目の当たりにして、ただ手を合わせる事しか出来ませんでした。生きていること、健康であること、語り合える良き友が沢山いることが本当に幸せだなど思う集いでした。

(齋藤 紀江子)

第十三回生(昭和三十五年卒)

平成二十六年九月二十八、二十九日、一泊二日で秋保の岩沼屋で第八回同期会が開催されました。

参加者は男性四十二名、女性三十七名合計七十九名で、今回初めて参加された方が何名かいまして、遠くは北海道から参加され、懐かしい仲間の元気な笑顔に会えて楽しい時間を過ごすことが出来ました。

宴会は男女共年齢を感じさせない盛り上がりで、会終了後も各クラスの部屋に分かれて昔の思い出話や歳とともに不安になる健康の話で時間の経つのも忘れる程でした。翌日は暑いくらいの秋晴れの中、秋保散策、雑談する人、絵画をしたい人等に分かれて昼過ぎまで一緒に過ごし、名残惜しい同期会も終了しました。

今回は古稀の祝いを兼ねた会でしたので健康で参加できたことを共に感謝しました。これからも何回このような楽しい会ができるか分かりませんが、出来る限り参加して仲間の元気

な顔に会いたいと思います。

(鈴木 道子)



こちらも、参加された方はお分かりになるかもしれませんが...

※ 今回同期会を開催した第十一回生及び年数回世話人が集まっているという第十二回生から同窓会活動に役立ててほしいとご芳志を頂戴しました。ありがとうございます。

### 第十五回生 (昭和三十七年卒)

今回の同期の報告を仰せつかった私は、大阪の会社に就職したこともあり、同窓会や同期会とは無縁な存在となっていました。が、人生とは思議なもので、十一年前に大学教員として仙台に戻ってきました。

我々が中三の時は東京オリンピックの三年前、新幹線もまだ走っていない時代でした。グラウンドでは野球部の和田投手が日々颯爽と投げていたし、強豪の女子バレー部や女子ソフトボール部ほかが所狭しと入り乱れて、とても活気にあふれていた光景が思い出されます。私は男子バレー部で、同僚と共に真っ黒に日焼けしていました。

十五回生が皆公平に加齢して、それから五十二年後の平成二十五年、六月二十九日の八軒同窓会総会の後、仙台駅東の「天海ハマ市場」で同期会を開き、十九人が再会を満喫しました。後日、どこから聞いたか「俺も皆に会いたい」との連絡が東京の同期生から入り、急遽、九月十四日に同年二回目となる同期会

を河原町の「つきだてや」で開きました。十四人の参加でした。会うのが本当に久しぶりという方もおり、同期会は毎回とても楽しい会となります。参加者は皆元気で、旧交を温めることができて何よりです。

同期の元生徒会長の木幡君は、二年前から久しぶりの母校で同窓会事務局をしていますが、「・・・私は浦島太郎だ」と言っています。私もまったく同様で、同期会の履歴についてよくは知りません。しかし、北海道で会社経営の松谷君が、仙台に立ち寄り、皆を呼び出していたよう



「天海ハマ市場」にて

で、その後、村井・豆田両君が集いの会に汗をかいてくれ、太田・武井・丹野さん(旧姓)らが裏方で頑張ってくれていたようです。参加者もだんだんと増え、現在四十名強の連絡網ができております。参加者はまだまだ増えていくと思われれます。これまで会の運営にご尽力の各位にはここに深く感謝いたします。最後になります。思いのままにお名前を挙げさせて頂きました方々には、私の勝手にどうかご容赦いただきますようお願いいたします。

(新井 信二)

### 第十八回生 (昭和四十年卒)

恒例の納涼会、忘年会、年三回のゴルフコンペを実施致しました。忘年会は、これまでの最多三十九人参加で盛況でした。参加希望の方は、〇九〇一九三八六一七四六、直野まで。

(直野 まり)

クラス担任・佐々木八郎先生のお名前を戴いた旧三年十組のハチロー会は、平成十年以来七

回目のクラス会開催です。今回は遠方の方も日帰り参加できるようにと七月十二日(土)の昼食時に設定、十八人が参加し先生を中心に楽しい一時を過ごしました。



八軒中正門にて

集合を八軒中正門としたので、皆ドキドキしながら半世紀ぶりに母校へ向かいました。が、建物は変わっても何の違和感もなく、クラスメイトと一緒に強みか、しばしの見学・散策をさせて頂きました。その後は河原町まで歩いて「つきだてや」で会食、まさにタイムスリップの一日でした。次回は今秋、八郎先生の米寿のお祝いを企画しています。

(三浦 順子)

いあごやう

伝統の重み

仙台市立八軒中学校

校長 米澤 通徳



今年度の四月(昨年四月)に八軒中学校に赴任いたしましたし

た。五年間、市教委の教育相談課に勤務し、久しぶりの現場復帰でした。八軒中には、教育相談課時代から生徒指導面でいろいろと関わっていたので、正直、課題が多いのではないかとという思いと、歴史ある学校だからすばらしい校風と力を持った生徒が多く、市内でも誇れる学校になるのではないかとという期待感を持つての着任でした。

えています。特に、全校生徒が披露してくれた「校歌斉唱」は、三十数年の教職人生でもっともすばらしく、あれほど感動したことはありませんでした。脈々と八軒中の伝統が引き継がれ、生徒は、八軒生としての誇りを持つて学校生活を送っていることが確認できました。そのとき、私は、これなら間違いなく仙台市ナンバーワンの学校になれると思ひ、子供たちに、ことあるたびに仙台市ナンバーワンを目指そうと話してきました。市中総体前の選手激励会、校内合唱祭、文化発表会、陸上カーニバル等々、どの行事も、子供たちが主体的に取り組み、見る側に大きな感動を与えてくれました。やると決めたら、仲間と力を合わせ全力で取り組む校風を感じます。こういった校風は、同窓の方々も長年かけて積み上げてこられたものが、しっかりと引き継がれているのだと思います。この一年間、子供たちの行事への取り組みは、間違いなく仙台市ナンバーワンの取り組みだと思っております。

更に、地域の方々も子供たちや学校をしっかりと支援してくれていると強く感じます。様々な地域の行事に子供たちを活用していただきながら、子供たちを認め、地域の中で子供たちを育てていこうとする姿勢が感じられます。こういった雰囲気を作ってくれているのも同窓の方々のお陰であると思います。昨年五月下旬に実施した、地域防災訓練でも、いずれは、この地域の将来を担う子供たちを育てようという姿勢が感じられます。子供たちは、自分たちの仕事ぶりが認められ、地域の方々から自己有用感を育んでいただいております。そういった地域の温かさが、子供たちに地域のために何かできることがあれば一生懸命やろうという姿勢の礎になつていっていると感じています。

現在、子供たちは、様々な場面、「仙台市ナンバーワン」と言うことを口にする事が多くなりました。その背景には、子供たちの中にしっかりと校風と伝統を引き継ぎ、更に発展させていかなければならないとの意識が芽生えてきているからだと思います。私は、子供たちの話を聞くたびに、心から嬉しく思うと同時に絶対に実現したいと思っております。

我々教職員は、伝統ある八軒中学校に赴任したことに誇りをもっています。本校の校訓「美しく」「たくましく」「つつましく」をしっかりと子供たちに教養えてまいります。自他共に認められる、「仙台市ナンバーワン」の学校を目指して。

在校生の活躍ぶり

《運動部》

第六十三回

仙台市中学校総合体育大会

- ① 剣道
  - 男子 団体 二位
- ② 陸上
  - 男子 一年百M 八位
  - 女子 四×百Mリレー 八位
  - 一年百M 二位
  - 百Mハードル 九位
  - 走幅跳 八位
- ③ 卓球
  - 女子 個人 三位

④ 水泳  
 女子 二百M平泳ぎ 二位、六位

百M平泳ぎ 二位  
 四百Mメドレー 八位  
 四百Mフリー 八位

第六十三回

宮城県中学校総合体育大会

① 陸上

女子 一年百M 八位

② 水泳

女子 二百M平泳ぎ 二位

百M平泳ぎ 二位

仙台市特別支援卓球大会

三年男子 A2ブロック 一位

A1ブロック 二位

C6ブロック 三位



中総体激励会 (6月12日)

二年女子 B2ブロック 二位

《文化部》

① 吹奏楽

・宮城県管打楽器ソロ

コンテスト 金賞

・全日本吹奏楽コンクール

第五十七回宮城県大会予選

仙台太白・宮城野・若林地区

大会 金賞

・全日本吹奏楽コンクール

第五十七回宮城県大会 金賞

・全日本吹奏楽コンクール

第五十七回東北大会 銀賞

・第四十八回アンサンブルコン

テスト仙台若林地区大会

サクソフォン四重奏 金賞

クラリネット三重奏 金賞

トロンボーン三重奏 金賞

打楽器七重奏 銀賞

・全日本中学生・高校生管打楽

器ソロコンテスト南東北大会

独奏 金賞

② 合唱

・第八十一回NHK全国学校

音楽コンクール

宮城県大会 銀賞

・第六十六回全日本合唱コン

クール 宮城県大会

銀賞



校内合唱祭 (7月9日)

《その他》

・第五十三回宮城県造形教育

作品展 特選

・第四十四回仙台市中学校生徒

地図作品展 特選

土地利用部門 銀賞

・第八十二回全国書画展覧会

書写の部

特選、金賞、銀賞

・平成二十六年度仙台市小・

中学校図工・美術合同展

金賞、入選

《主な学校行事》

・二年野外活動 盛岡、久慈

四月二十二日～二十四日

・三年修学旅行 千葉・東京

五月十三日～十六日

・南材地区自主防災訓練

五月二十四日

・校内合唱祭(名取市文化会館)

七月九日

・文化発表会 八月三十日

・陸上カーニバル 九月十九日

・一年校外学習 秋田

十月二十一～二十三日

・児童生徒による故郷復興プロ

ジェクト

十一月十一日

・同窓会入会式 三月六日



故郷復興プロジェクト (11月11日)

※ 写真は八軒中ホームページから転用しました。



同期が集えば(三)

第七回生(昭和二十九年卒)

今年二月十七日に幹事会を開催しました。

(菊地 せつ子)

第十四回生(昭和三十六年卒)

平成二十六年十一月に古稀を祝う会を仙台ガーデンパレスで、今年一月には、有志で新年会を開催しました。四月には花見も計画しています。

(日下 正次)

第十七回生(昭和三十九年卒)

平成二十六年九月十一日(木)、パレス平安を会場に、午後五時三十分から四ツ葉三九回総会と懇親会を開催しました。

参加者は会員三十名、恩師三名でした。今立先生、笠原先生、曳地先生、お三人共に大変お元気で、パワーをいただきました。

伊藤文雄事務局長を進行役にして、小野寺幹雄会長のあいさつ、三瓶信正議長による総会も円滑に進められました。懇親会では、民謡がでたり、ユニーク

な近況報告がでたりで、常に和やかに皆中学時代に戻ってしまいました。同級生とはいいいいものです。楽しかったです。

(安達 和則)

第二十二回生(昭和四十四年卒)

東京在住七名で、年一、二回飲み会をしています。今秋仙台での同期会開催を検討しています。

(鈴木 裕行)

第二十七回生(昭和四十九年卒)

平成二十六年九月十三日、関東支部の世話人四人が、神奈川県藤沢市内で久しぶりに顔を合わせました。七月に急逝した関東在住の同期生を偲び、ちよつとしんみりしつつ、でも、気心の知れた同期生同士、楽しい時間を過ごしました。

(小西 乃里子)

第四十回生(昭和六十二年卒)

八軒中学校を卒業してから二十六年の時が経過して、初めての同窓会を開催することができました。

日時 平成二十六年

八月十六日(土)  
十六〜十八時

会場 江陽グラウンドホテル  
参加者 卒業生五十七名

(男子三十六名、  
女子二十一名)



容姿や体型が変わっても...

卒業してから二十六年振りに会う友人達は、容姿や体型は変わったものの、話をするると中学時代にタイムスリップ、あつと言う間に思い出話で盛り上がりました。

参加できなかった友人達にも  
また再会したいものです。

(高橋 健一郎)

第四十七回生(平成六年卒)

今年一月三日に同期会を開催しました。

(三浦 桂一郎)

第五十五回生(平成十四年卒)

数年に一度お正月やお盆に有志で集まっています。

(遠山 みのり)

※ 掲載に当たり執筆者の敬称は略させていただきます。

同期会、同級会、幹事会等の開催情報募集中

八軒つうしん第十号

発行日

平成二十七(二〇一五)年

二月二十八日発行

発行者 八軒中同窓会事務局

〒九八四-〇八二七

仙台市若林区南小泉

字八軒小路九一一

仙台市立八軒中学校気付